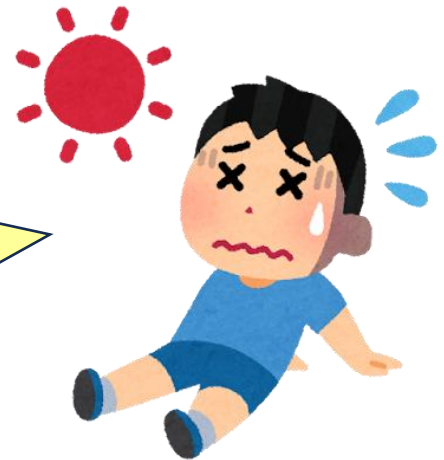


豆類において注意を要する病害虫

1. 令和7年の豆類における病害虫発生状況
2. 令和7年に発生が多かった害虫
+ ちょっと気をつけてほしい害虫について

近年は高温が続いていて、
病害よりも害虫の被害が目立ちます！

人間は暑くてバテても、虫には好適条件なんです♡



北海道立総合研究機構
上川農業試験場 研究部 生産技術グループ
長濱 恵

令和7年度 病害虫の発生状況

北海道病害虫防除所HP 病害虫発生現況調査より

作物名	病害虫名	発生期	発生量 平年比
小豆	菌核病	並	やや少
	灰色かび病	並	並
	茎疫病	—	やや少
	落葉病	—	並
	食葉性鱗翅目	並	並
	アズキノメイガ	やや早	やや少
	マメアブラムシ	並	少
菜豆	菌核病	並	少
	灰色かび病	並	やや少
	黄化病	—	少
	タネバエ	—	並

多発したものは
なかったけど・・・



これまで問題ではなかった害虫
が各地で目立ちました！

①カメムシ類

②飛来してくる害虫

上川ではあまり問題にならな
かったのですが、今後心配なの
で、紹介します。

①カメムシ類による子実被害

かつて2000年頃に、マキバカスミカメによる子実の吸汁害が目立った。

未熟な莢 → 脱落・しいな
肥大した子実 → 吸汁粒

例年被害が多い圃場は
お盆ころに
殺虫剤を2回散布
(有機リン・合成ピレ)



小豆の被害子実



マキバカスミカメの成虫

体長約6.5mm

①カメムシ類による菜豆の被害

莢が厚いため、カメムシ被害は少なかった。

たまたに、カスミカメ類による花落ち被害
エゾアオカメムシによる子実吸汁



エゾアオカメムシ



手亡の被害子実



金時の被害子実



白花豆の被害子実

①カメムシ類による子実被害

北海道ではこれまで、大型カメムシのほ場内密度は低かった。

しかし、2024年頃から、これまで畑地では見かけなかった大型カメムシ類が多発

大豆に限らず
小豆や菜豆も吸汁

今後の動向を注視
大豆では対策試験を計画



チャバネアオカメムシ



ホソヘリカメムシ



クサギカメムシ

②暖地からの飛来性害虫

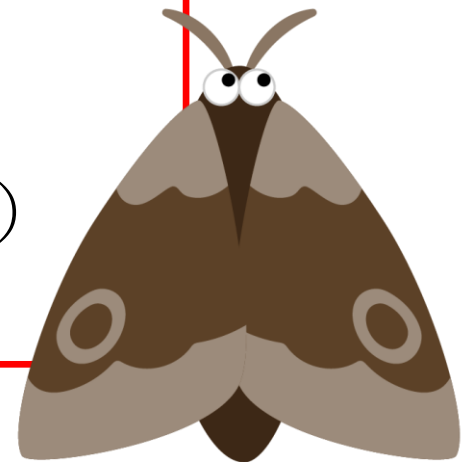
昨年以上に発生が目立った。

- ・ 低気圧通過時などの南風により本州以南から成虫飛来
- ・ 高温少雨を好み、本道の野外では越冬できない
- ・ 夜温15℃以上が好適

小豆では新発生！

花を食害。莢では1~5mmの穴を開けて頭部を入れて子実を食害

オオタバコガ（小豆ほか） ・ マメノメイガ
ウコンノメイガ（大豆）
シロイチモジヨトウ（てんさいほか）
シロオビノメイガ（てんさいほうれんそう）
コナガ（あぶらな）



オオタバコガ

被害が目立つ果菜類のみならず、本年は小豆の莢を食害
葉も食べるが、より花・莢・実を好む



小豆の莢を食べる幼虫



オオタバコガの成虫



さやえんどうの莢を食べる幼虫

マメノメイガ

R5年に道央・道南を中心に多発、R6年も発生。
本年度も、アズキノメイガ（土着種）と混発。
昨年から対策試験を実施中



マメノメイガ卵(佐々木太陽原図)



マメノメイガ成虫(松原原図)



マメノメイガ幼虫(佐々木太陽原図)



食害するマメノメイガ幼虫(松原原図)

マメノメイガの小豆被害（佐々木太陽原図）

進入口から外へ多量の糞を出すのは、アズキノメイガと同じ。
糞や糸により、莢と莢、または莢と葉が接着することも。



花も食害するのは
“マメノメイガ”

アズキノメイガ (三宅原図)

昔から北海道にいる



卵塊



莢への加害



越冬直前の幼虫



成虫♀



被害莢

進入口から外へ
多量の糞を出す

マメノメイガ（飛来）と アズキノメイガ（在来）の違い

	加害作物	道内越冬	道内の発生時期	主要な 加害部位
マメノメイガ	小豆 菜豆 その他	ほぼ不可	飛来性のため、 発生時期は 年次により異なる	花・莢
アズキノメイガ	小豆 菜豆 その他	毎年越冬 (在来種)	毎年7月上旬から 成虫が発生 (6月の降雨量が影響)	莢・茎

マメノメイガの防除対策

- ・適期播種する（播種が遅いと被害が大きかった）。
- ・小豆の花の中に幼虫がいないか、莢の表面に糞がついていないかなどを確認する。
- ・アズキノメイガの防除適期より早い（開花始）。
7日間隔で3～4回（マメノメイガも同時防除OK）。
- ・アズキノメイガと異なる殺虫剤？
- ・病害虫防除所のウェブサイトでは、道内の農業試験場でマメノメイガが捕獲された場合、ホームページ上で速報として情報提供しています。

現在、道南、中央、北見農試で試験実施中
（生態、有効薬剤、散布時期・回数など）



食葉性鱗翅目幼虫（三宅原図・小野寺原図）

ヨトウガ



6月中旬頃～と8月中旬頃～の年2回発生

ツメクサガ



7月上旬頃～と8月上旬頃～の年2回発生

豆類のハダニ類（小野寺原図）



圃場周辺から内部へ向かって侵入
葉がかすれる



多発するとクモの巣みたいな
糸を張る



ナミハダニ

マメアブラムシ（下間原図・三宅原図）



6月中旬に有翅虫が飛来し、葉裏や茎上で繁殖。7月頃から増加。

乾燥した天候で多発。早期に防除すれば開花期以降に多発することは少ない。

びっしり寄生すると1回散布では無理、薬液が十分量アブラムシにかかるように散布！

タネバエ（下間原図）



播種時の土壌が湿っていたり、低温で出芽に時間がかかると被害が大きくなる。
未熟堆肥・有機質肥料により誘引されるので注意する。

次年度以降の豆作りに向けて

虫害

近年の夏期は高温・干ばつ傾向
→次年度も、特に飛来性害虫
および大型カメムシの多発に注意

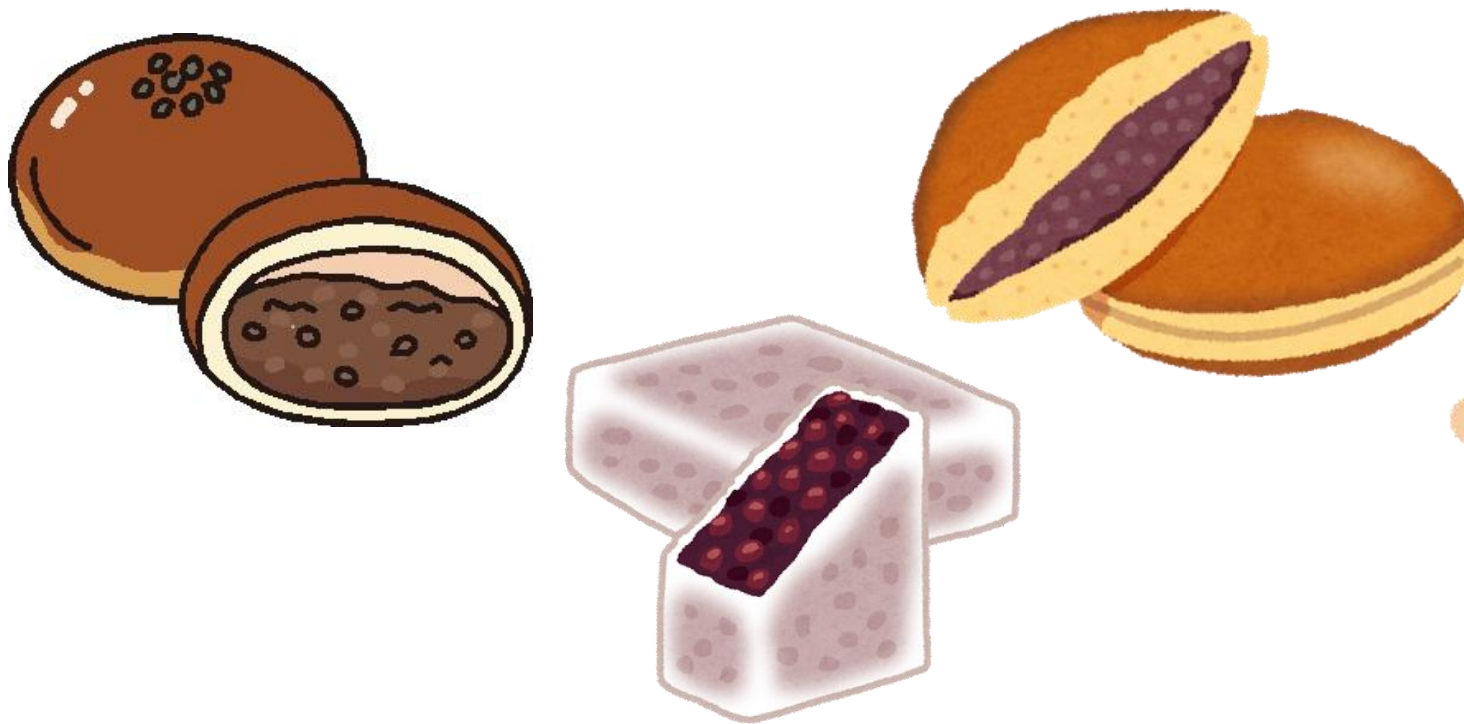
害虫は高温により発生時期が早まることから、
防除適期を逃さないよう発生予察情報に注意し、圃場観察を

病害

高温は、時に激しい雨を伴う傾向
→圃場の滞水や集中的な降雨を通して、
病害が多発する恐れも

病害は初発前の予防的な防除が大事
気象の変化を読んで、適切な防除を

ご清聴ありがとうございました



今後とも農業試験場の調査および試験実施に
ご理解とご協力をお願いします

